



# AI翻訳プラグイン powered by OpenAIの紹介

2025/6/19版

## プラグイン概要

このプラグインは指定されたシングルラインおよびマルチラインのフィールドのテキストをOpenAIのgpt-4.1モデルを用いて指定された言語に翻訳するものです。

## プラグインの特徴

このプラグインの特徴は以下のとおりです。

### ユーザ視点

- サーバサイドで翻訳を行い、結果を反映するため、ユーザが保存する際の生成AIの応答待ちの時間が発生しません。
- 繁体字中国語、日本語の相互翻訳に対応しています。
- 任意個のフィールドを翻訳可能です。
- 設定画面は繁体字中国語、日本語、英語の3言語の表示に対応しています。

### 事業者視点

- サーバーレス、マルチテナントのサーバサイド処理を採用しており、低コストでサービスの提供が可能です。
- 顧客のkintone URL毎にライセンスコードを発行して、プラグインからのリクエスト受信時に認証を行うので、違法コピー対策も万全です。
- 翻訳対象フィールドのデータをプラグインから受信し、翻訳実行、ユーザのkintone上に書き込み後は破棄します。  
\*OpenAIによると、APIの入力データはAIトレーニングなどへ再利用されないということです。

# 導入手順

## 1. プラグインの読み込み

- a. kintoneシステム管理 > プラグイン画面を開きます。
- b. 上部の「読み込む」ボタンからプラグインファイルを選択して読み込んでください。
- c. 画面の「読み込んだプラグイン」の箇所に「AI翻訳プラグイン」が表示されれば読み込み完了です。



## 2. プラグイン利用のための準備

### a. ライセンスキーの入手

プラグイン提供元に自身のkintone環境のベースURL（kintone利用時のブラウザのURLバーより「https://xxxx.cybozu.com」の部分のコピー）を提供し、ライセンスキーの提供を受けます。

### b. APIトークンの作成 ※プラグイン利用対象のアプリ毎

#### i. プラグインを利用するアプリの設定画面を開きます。



- ii. 「設定」タブの「APIトークン」画面で「レコード閲覧」権限と「レコード編集」権限を付与したAPIトークンを生成します。

APIトークン [?ヘルプ](#)

外部のプログラムからREST APIを呼び出す際に使用する認証情報（APIトークン）を管理します。  
この画面でAPIトークンを生成し、REST APIのリクエストヘッダに付与することで、REST APIを実行することができます。  
例： curl -H "X-Cybozu-API-Token: YOUR\_TOKEN" "https://cybozu.com/k/v1/record.json?app=45&id=1"

[生成する](#)

| APIトークン | アクセス権                                                                                                                                                                                   | メモ |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
|         | <input checked="" type="checkbox"/> レコード閲覧 <input type="checkbox"/> レコード追加 <input checked="" type="checkbox"/> レコード編集<br><input type="checkbox"/> レコード削除 <input type="checkbox"/> アプリ管理 |    |

[kintone開発者向けドキュメント](#)
[kintone開発者向けサイト](#)  
[kintone開発者向けドキュメント](#)
[cybozu developer network](#)

[< アプリの設定に戻る](#)
[キャンセル](#)
[保存](#)

- c. プラグインを利用するアプリに、翻訳対象のデータを保持するフィールド（翻訳元フィールド）と翻訳結果を保存するフィールド（翻訳先フィールド）を準備します。

プラグインで扱えるフィールドは単一行テキストフィールドおよび複数行テキストフィールドのみです。表示位置、表示サイズに関する制限はありません。

### 3. プラグイン設定 ※プラグイン利用対象のアプリ毎

#### a. プラグインの追加

プラグインを利用するアプリの設定画面を開き、「設定」タブの「プラグイン」画面の「追加する」を押下し、アプリに追加するプラグインとして「AI翻訳プラグイン」を選択します。

#### b. プラグイン設定画面を開く

- a. の結果、プラグイン画面にAI翻訳プラグインが表示されるので、設定の歯車ボタンをクリックしてプラグイン設定画面を開きます。

プラグイン [?ヘルプ](#)

プラグインの追加や設定を行うことができます。  
[追加する]ボタンをクリックして、利用可能なプラグインから使用するプラグインを選択します。  
利用可能なプラグインの登録は、[kintoneシステム管理](#)から行います（kintoneのシステム管理権限が必要です）。


[拡張機能について知る](#)  
 拡張機能で、さらに広がるキントーンでできること  
[拡張機能とは プラグイン・関連サービスを探す](#)

[+ 追加する](#)

| 状態          | プラグイン名                                                                                        | 設定                                                                                  | 説明                                |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 有効<br>無効にする |  AI翻訳プラグイン |  | シングルライン/マルチラインテキストを生成AIを使って翻訳します。 |

#### c. プラグイン設定の入力・保存

- i. 先に準備したライセンスキーとAPIトークンを入力します。
  - ii. フィールドマッピングで翻訳元のフィールド名、翻訳先フィールドを選択します。  
※翻訳元、翻訳先のフィールドは異なるものを選択してください。
- ※翻訳先フィールドはプラグインの設定が完了すると編集不可フィールドとなり、翻訳データで更新されます。既存データを保持しているフィールドを選択しないように注意してください。**
- iii. 保存ボタンを押下して設定を保存します。
- d. アプリ設定画面で「アプリを更新」を実行

サイドメニュー

アプリ内検索

ポータル > スペース: テスト用スペース > アプリ: 活動履歴 (営業支援バック) > アプリの設定 > プラグイン > プラグインの設定

プラグインの設定

AI翻訳プラグイン

バージョン: 2.0.0

AI翻訳プラグイン設定:

ライセンスキー:

APIトークン:

フィールドマッピング:

| 翻訳元フィールド       | 翻訳先フィールド        |
|----------------|-----------------|
| 商談メモ (中国語)     | 商談メモ (日本語)      |
| 備考 (日本語)       | 備考 (英語)         |
| ネクストアクション (英語) | ネクストアクション (中国語) |

キャンセル 保存

## 制限事項

- 翻訳元、翻訳先フィールドとして選択できるのは、単一行テキストおよび複数行テキストのフィールドのみです。  
リッチテキストフィールド、およびサブテーブル内のテキストフィールドには対応しておりません。
- 翻訳元フィールドと翻訳先フィールドのタイプが異なる場合の動作は保証しておりませんのでご注意ください。
- プラグイン設定画面でフィールドマッピングを設定後、該当フィールドのフィールドコードを変更すると正しく動作しなくなります。再度プラグイン設定画面においてフィールドマッピングの設定を行ってください。

- ゲストスペース内のアプリには対応していません。